

【8月のテーマ】 外来種ってどんな生きもの？

案内人：小田谷嘉弥（鳥の博物館学芸員）
・小泉伸夫（鳥の博物館市民スタッフ）



▲ヨーロッパから日本国内に持ち込まれた外来種のコブハクチョウ。

人の手によって本来いなかった地域に持ち込まれた生きもののことを外来種といいます。外来種は、私たちの生活や農林水産業、在来の生態系に悪影響をもたらすことがあるため、その対策は持続可能な社会を実現するためには避けて通れない課題となっています。

今回は、手賀沼周辺にどのような外来種がいるのか知り、彼らとどのように付き合えばゆけば良いのか、考えてみましょう。

2022年8月13日（土）

車や自転車に注意しましょう。水田や私有地では、マナーを守って観察しましょう。

困った（害のある）外来種たち

私たちの身の回りには、たくさんの外来種がいます。私たちになじみ深い生物であるオカダンゴムシやオオイヌノフグリも古い時代に持ち込まれた外来種です。外来種のうち、特に私たちの暮らしや生態系に悪い影響を与えるものを「**侵略的外来種**」と呼びます。日本の侵略的外来種は、環境省が作成した「生態系被害防止外来種リスト」に取りまとめられています（右下のQRコード参照）。野外に定着してしまった侵略的外来種は、これ以上**野外に放さない、数を増やさない、分布を広げない**ことが重要です。

生態系被害防止外来種リスト
(環境省ウェブサイト) →



手賀沼で見られる侵略的外来種



アメリカザリガニ

原産：北アメリカ

影響：水草の捕食、農業被害など



ナガエツルノゲイトウ

原産：南アメリカ

影響：船舶の運航の阻害など



コブハクチョウ

原産：ヨーロッパ

影響：農業被害、感染症の媒介など



カダヤシ

原産：北～中央アメリカ

影響：メダカなど在来種との競合